

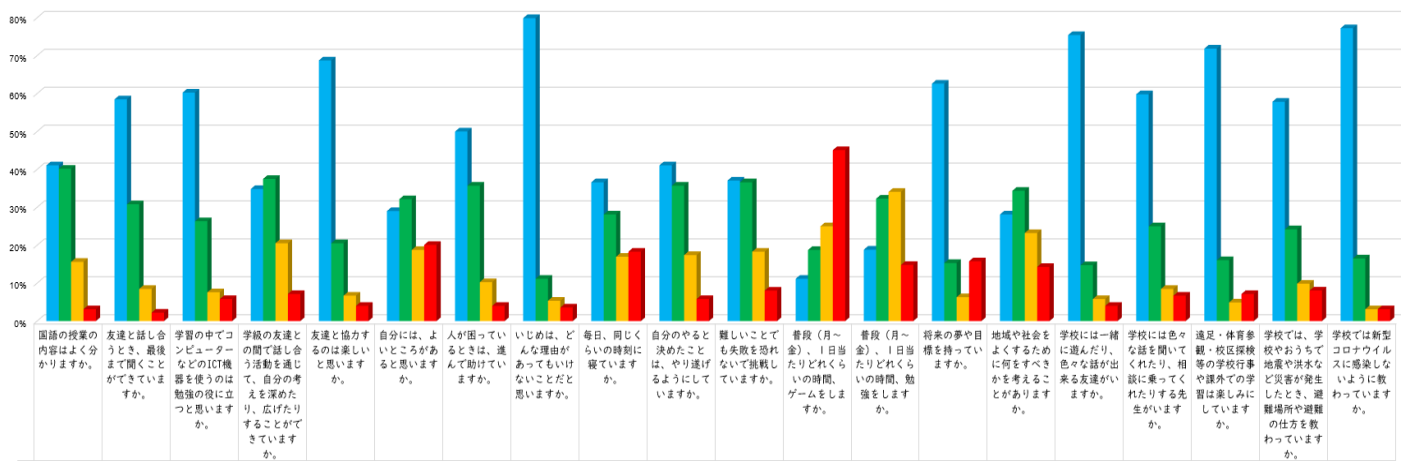
2021年度 奈良市立辰市小学校 アップデートプラン ～ 学校アンケート考察より ～

令和元年度補正予算案において、児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための経費が盛り込まれました。それを受け奈良県では、全国で一番早く整備を完了し、令和の時代のスタンダードとしての学びを図れる状況となりました。

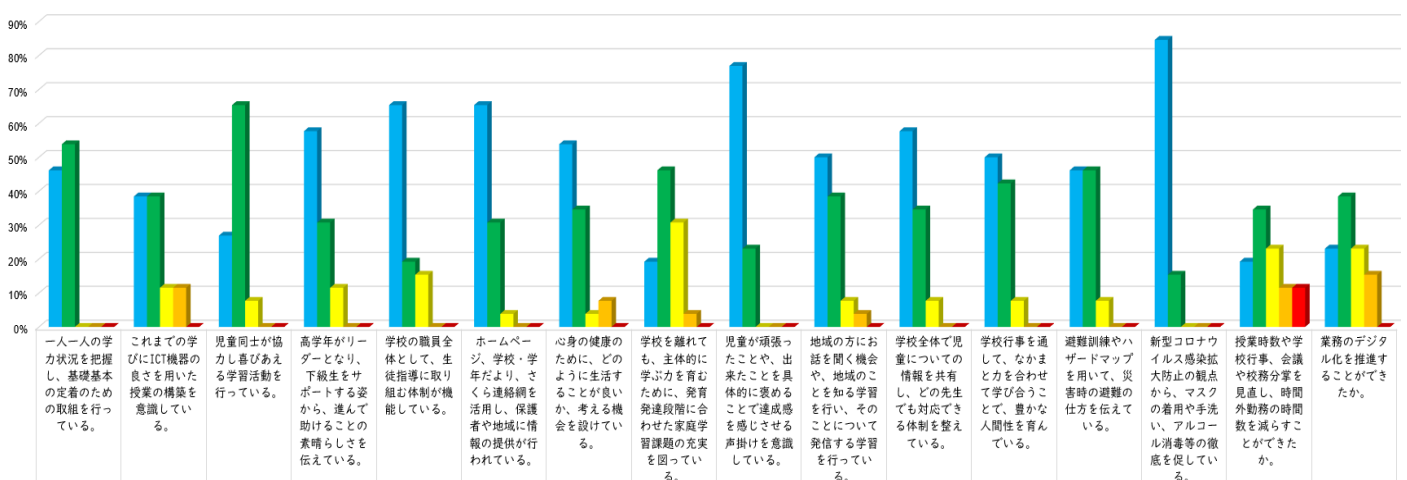
本校でも、ICT×五感（これまでの学び）のベストミックスを念頭に、地域の目指す子どもの姿を基盤に、文部科学省等が示している“令和の時代に求められている学び”に照らし合わせ、Society5.0社会を生き抜く力を育むべく、学校アンケートの考察を行いました。

*水色：当てはまる 緑色：どちらかといえば当てはまる 黄色：どちらとも言えない 橙色：どちらかと言えば当てはまらない 赤色：当てはまらない

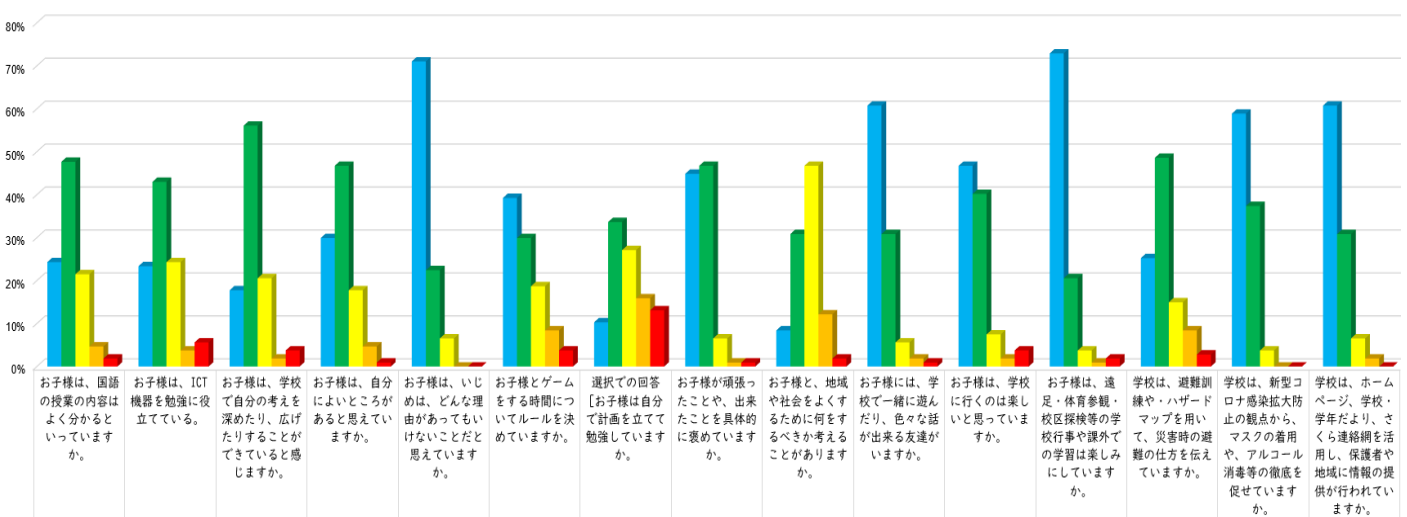
学校アンケート（児童）



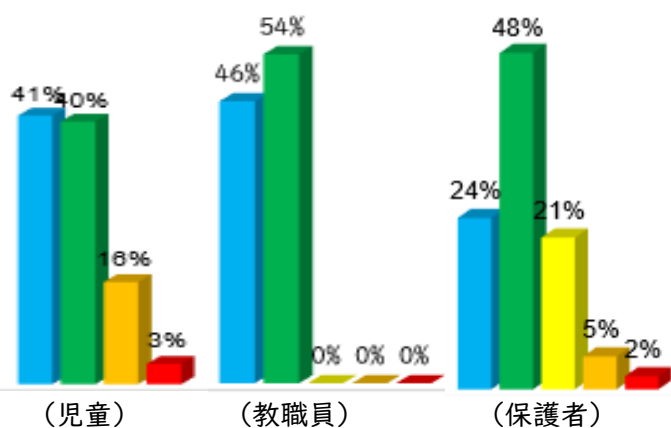
学校アンケート（教職員）



学校アンケート（保護者）



○基礎学力の定着



左から
 児童：国語の授業はよく分かりますか
 教職員：一人一人の学力の状況を把握し、基礎基本の定着のための取組を行っている。
 保護者：お子様は、国語の授業の内容はよく分かりますか



アンケート結果では80%を超える児童が、保護者の皆様の結果においても76%の児童が、国語の授業はよく分かるとしていることが分かりました。

しかしながら、全国学力テストの結果から、点数で表される学力が伴っていないという実態も明らかになっています。

この課題の解決のために、2つのことをアップデートしようと考えています。

【教職員】主体的に学ぶ力を育むために、発育発達段階に合わせた家庭学習の充実を図る。

【保護者】家庭での過ごし方を見直し、基本的な生活習慣を整える。

“主体的に学ぶ”とは、『学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる』と、文部科学省は定義しています。

その力を育むためには、漢字ドリル等学校から出される家庭学習課題だけではなく、高学年になるにつれ自分で興味をもって進める自主学習ができる力を育むことが大切だといわれています。そのためには2つのことが必要となってきます。

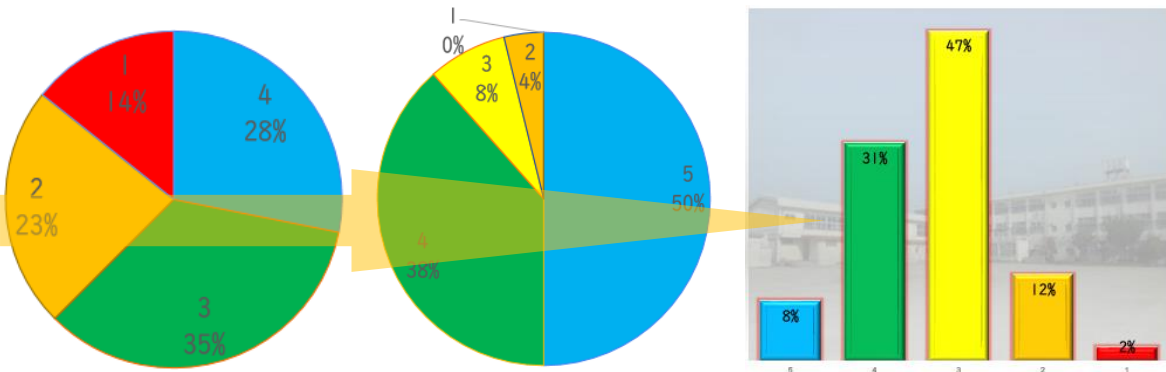
- ① 児童が自発的・探究的に進めたい学習活動の構築
- ② 児童が意欲的・自主的に学びに向かえる環境づくり

①については、地域の方々との学びを再構築し、生活科・総合なら科の学習を6年間系統立て、各教科のねらいと関連性を持たせ学ぶ“カリキュラムマネジメント”を進めていきたいと考えています。

こうした学習の中で自分たちが学んだことを発表・発信する場を設け、聞き手に的確に伝えるために、仲間とコミュニケーションをとりながら、自発的・探究的に進めたい学習活動を構築する中で、新学習要領に新しく示された“学びに向かう力”を育てていきたいと考えています。そうすることで、家庭でも意欲的・自主的に学ぼうとする姿が見られるものと考えています。

また、このような学習は自尊心も高めることができると考えています。

地域の方々のみならず、企業や事業所にも力を借りながら、“社会に開かれた教育課程”を展開する中で、地域のことや自分のことを誇りに思える気持ちを育むことが自尊心の向上につながると考えています。



左から
 教職員：地域の方にお話を聞く機会や、地域のことを知る学習を行い、そのことについて発信する学習を行っている。
 児童：地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
 保護者：お子様と、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

また、自尊感情を高めるためには“褒める”ということが大切と言われています。
アンケートの結果から、保護者の皆様におかれましてはご家庭で多くの方が褒めていただいていることが伺えました。

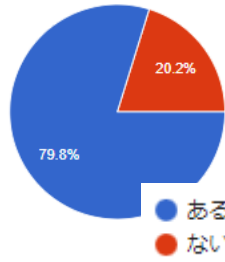
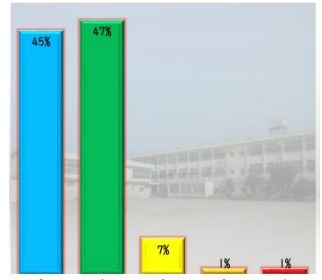
私たち教職員においても、先日の行った人権アンケートで“何か言ってもらったり、してもらったりしてうれしい気持ちになった”と多くの子どもたちが回答しています。

しかし、『自分には、よいところがあると思えますか』では、よい数値とは言えませんでした。

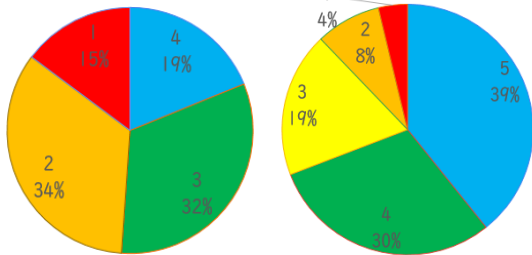
そこで、今まで知らなかった価値観や客観的に自分たちの地域を見つめなおす機会を設け、Society5.0 社会を生き抜く力を育むべく、ICTを積極的に活用し、社会や他校の児童に発信するための過程においての頑張りに対する確かなコーチングを行いながら、子どもたちの能力を引き出し、達成感を感じさせることで、自尊感情の確かな高まりを感じさせようと考えています。

②については生活習慣を整えて頂きたいということです。

これには保護者の皆様のご協力が必要です。その一つに“ゲームのルール作り”が必要であると感じました。



棒：お子様頑張ったことや、出来たことを具体的に褒めている
円：学校の先生から何か言ってもらったり、してもらったりして、うれしい気持ちになったことがありますか



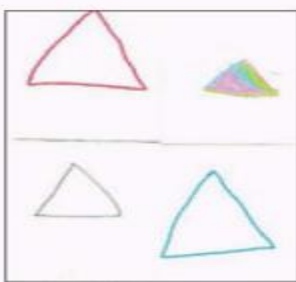
左から
児童：普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか。

【4：2時間より多い 3：1時間から2時間 2：1時間より少ない 1：全くしない】
保護者：お子様とゲームをする時間を決めていませんか。

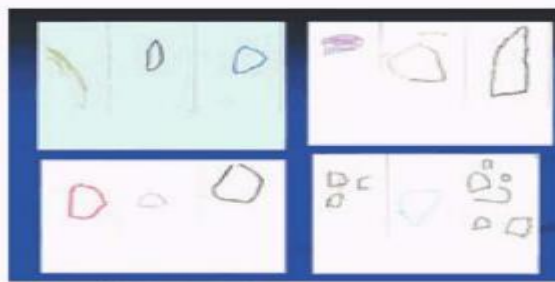
規則正しい生活習慣は子どもたちの健やかな成長を後押しします。しかしそうではない場合、学習意欲の低下のみならず、人間関係づくりやアンガーマネジメント能力の育成に大きな影響を及ぼすといわれています。

以下の資料は、文部科学省が示す『子どもの生活と現状』です。

■睡眠覚醒リズムの乱れた5歳児が描いた3角形



■正しく描けた子



■正しく描けなかった子

- ・ 三角形模写は、5歳児の睡眠-覚醒リズムの良否と関連があることが示唆されています。
- ・ 5歳児の睡眠-覚醒リズムの形成には、乳児期からの養育環境の意識が重要です。

第1章 子どもの生活と現状
文部科学省 より抜粋



学校の方でも引き続き、心身の健康のために、どのように生活することが良いか、考える機会を充実させ、健康に対する保持増進の教育に取り組んでまいりたいと思います。ご家庭でも一度子どもたちの過ごし方について見直していただければ幸いです。 *参考資料『子どもたちの生活習慣と健康』神奈川県 HP より (学校長より)



本年度学校が取り組んできた教育内容の成果と課題がアンケートから明らかになりました。ICTの活用や地域の方々、校区内の企業や消防署等と連携した取組は一定の成果があったと考えています。

一方、学力向上においては、早寝・早起き・朝ごはんを取るなどの基本的な生活習慣の定着、自主的な家庭学習習慣の形成が必要で、そのためには家庭でゲームやSNSについての約束が課題であり、子どもたちを中心に据えて、保護者のみなさま方と共に取り組んでいきたいと考えています。 校長 水上 智裕